

平成24年度 6月 経営の重点

【通うだけで楽しくてしかたがない、通うだけで助け合う力が育つ「伝説の学校」をつくろう！】

- 学校教育目標・・・「自主貢献」－自主的に行動し、助け合える生徒の育成－
- 目指す生徒像・・・的確に判断できる生徒、自主的に行動できる生徒、助け合いができる生徒
- 目指す教師像・・・一番好きになる教師、気持ちがわかる教師、学び続ける教師
- 3つの重点目標・・・プライド（12の実践）、学力向上（校内研究）、郷土愛（家庭・地域との連携）

5月の経営の重点は「ルールづくり」でした。

- 教科や学級、部活動等の「ルール」が守られていますか？
- その「ルール」が何のためなのか生徒は説明できますか？
- 守られない「ルール」があったらどのように指導されますか？

せっかく「ルール」をつくっても守られなければ何の意味もありません。しかも守られていない状況が当たり前になってしまうと教育ができない関係になってしまいます。自分の指導する集団に対する問題意識を持ち、何をすれば改善されるかを考えさせ、具体的に行動化することが大切です。

（6月の重点）「評価&具体的改善」

4月、5月に作り上げたそれぞれの集団のルールに則って生活づくりがなされてきました。ところが、6月頃から崩れ始める多くの学級では、集団のルールを守れない状況が顕著になります。教科の持ち物を忘れる、ノートをとらない、課題を出されても分からないから考えない、「教えて！」が言えずわからないままにする、ゴミが落ちていても拾わない、清掃に取り組まない、係の活動が機能しない、給食の配膳がいい加減、「いただきます」「ごちそうさま」が待てない、下駄箱やロッカーなどの個人の場소가汚くなる等の状況が顕著に現れてきます。このような集団のマイナス面が顕著になる前に、その集団で自己評価し、改善策を考え、取り組んでいかなければなりません。

そこで今月の重点は、「評価&具体的改善」です。自己評価や相互評価、他者評価をうまく活用し、具体的に改善していくことが、**人間関係づくりに焦点を当てながら行動変容**させていくことにつながってくるものと考えます。

問題や課題のない集団はありません。もしあるとすれば、指導者のビジョンや目標設定が低いか、表現力が乏しいだけです。心の目で子ども達を見つめ、その良さを引き出そうとするならば、これによしというレベルはないはずです。常に新たな課題が生まれるのはそのためです。問題意識が無く、安定していると感じたときには、すでに後退し、崩れ始めていることに気づかねばなりません。落ち着いているときこそ改善のチャンスです。

自分の教科指導、学級、学年、校務分掌、部活動等の振り返りをしっかりと行い、何が課題なのかを明確にし、どのように取り組むべきかを話し合い（熟議し）、具体的な改善策を打ち立て、解決していくことに力点を置きたいと思います。

※本校の課題は何ですか？ 学年の課題は何ですか？ 学級の課題は何ですか？ 分掌の課題は何ですか？ 部活の課題は何ですか？ 委員会の課題は何ですか？ 職員室の課題は何ですか？